

森林 病虫害

島根の森の「健康管理」

～ 病虫害の発生を見張ります ～

研究の背景・目的

森林には菌類や昆虫など様々な生物が生息しており、突発的に大発生して木に被害を与えることがあります。被害対策にはその被害を起こしている相手を知り、効果的な対策を立てる必要があるため、この課題では大発生した病虫害の生態・拡大状況・対策について調査しています。

また、公園や庭に植えた木に病気が出たり、虫が付いて木が枯れたり弱ったりして、どうしたらよいか困ることがあります。こういった県民の皆様からの様々な「木の病虫害」の質問にお応えしています。これが島根県全域に広がるかも知れない病虫害の早期発見につながることもあります。



クロマツ褐斑葉枯病
糸状菌の感染によって葉が枯れます。苗畑・庭園に発生し、木が枯死することもあります。



タケ類てんぐ巣病
麦角菌の感染によって枝がほうき状になります。竹林衰弱の原因となります。



ハラアカコブカミキリ
幼虫がシイタケ原木を食害するため、シイタケが収穫できなくなります。



ナガマドキノコバエ
幼虫がシイタケや、培地の菌床を食害し、収穫量が減少します。

研究方法

診断依頼のあった被害の診断をおこなっています。その中で今後、注意すべき被害については現地ですく詳しく被害状況・加害生物の生態などを継続して調査しています。



クロマツ褐斑葉枯病に対する各種薬剤の効果調査。



スギ人工林内に設置したマレーズトラップ。飛んできると昆虫を捕獲して、森林害虫の発生状況を調査します。昆虫用の定置網です。

研究状況

クロマツ褐斑葉枯病は県下全域に拡大しつつあるため、その分布調査を行い、また防除に有効な薬剤を検討しています。竹類てんぐ巣病は今後、被害激化の有無をモニタリングしています。

シイタケ栽培害虫である「ハラアカコブカミキリ」の県西部から東部への拡大、「ナガマドキノコバエ」の栽培施設での発生状況などを調査・確認してその対策を研究しています。

研究の成果

県下で発生する病虫害の動向を把握することで、被害を無くす的確な対応をとることができます。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

所属グループ 森林保護育成グループ

担当研究者 陶山大志・林晋平

(すやまひろし)(はやしんべい)

問い合わせ先 0854-76-3822

E-mail: chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名: 森林被害のモニタリングと管理技術に関する研究(研究期間: H15-)